

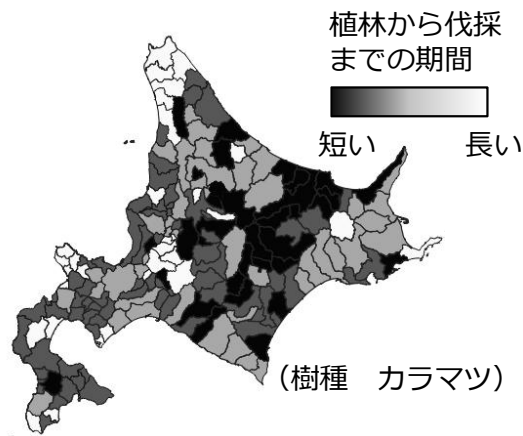
市町村単位で人工林資源の持続可能性を評価する

背景

地域資源である人工林資源の利用が進む中、各市町村の人工林の持続可能性の評価が必要となっている。

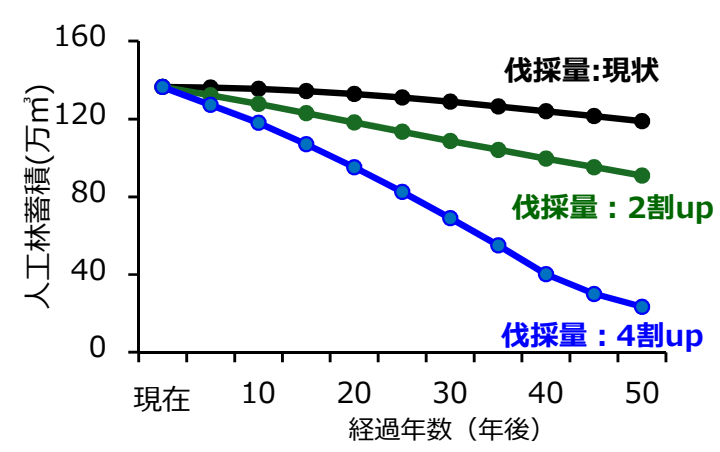
成果

1 各地の人工林の特性を解明



市町村の特性を踏まえた資源量の予測が可能になった。

2 シナリオ毎の将来を見える化



シナリオ毎の将来予測から、資源の持続可能性を評価可能に。

3 汎用表計算ソフトで簡単動作

①対象市町村・樹種		入力画面の一部
振興局	石狩	
市町村	当別町	
対象樹種		トドマツ
②計算対象の森林面積		森林調査簿の数値
年齢別森林面積		
施業可能面積率		
③伐採材積の設定		100%
伐採量の入力方法	期間一律	
間伐／主伐の材積比率	間伐と主伐は同程度で	
④植栽面積の設定		苗木量と植栽本数(主伐面積以下に制限)
植栽面積の入力方法		

動作方法のマニュアル整備。市町村等で試験導入。

期待される効果

全道の森林施策担当の職員や森林組合等にて、人工林資源の管理方針策定での利用が見込まれる。